

平成 30 年度津山市立図書館協議会会議録

日 時：平成 30 年 9 月 18 日

午後 3 時～4 時 30 分

会 場：津山市立図書館 視聴覚室

出席委員 佐藤委員長 長谷川副委員長 頭土委員 小椋委員 小林委員 國
米委員 国藤委員 菅原委員 灰原委員 筒塩委員 下山委員 金
崎委員
欠席委員 福田委員 安東委員
事務局 有本教育長 小坂田部長 坂元企画調整官 小川館長 大河原副館
長 菊入主査

1. 開会

2. 教育長挨拶

図書館は今年創設 40 周年をむかえた。3 月から記念行事をはじめ、5 月 19 日には図書館総合展地域フォーラムを誘致して事業を開催した。若者の読書離れが言われており、統計では小学生の 2 割以上、中学生の 4 割以上が読書をしないとされている。本館だけでなく、勝北、久米、加茂図書館の運営についても、ご意見をいただきたい。

3. 委嘱状交付

4. 自己紹介 (略)

5. 議事

(1) 役員選出について

佐藤委員を委員長に選出 長谷川委員を副委員長に選出

(2) 視聴覚ライブラリー担当委員の選出について

下山委員、福田委員、金崎委員を選出

(3) 平成 29 年度津山市立図書館及び視聴覚ライブラリーの利用状況について

館長 資料 2 (津山市立図書館、津山市視聴覚ライブラリー利用状況) について説明。

図書館の利用状況は貸出の微減が続いている。本館の来館者数は毎年数%ずつの減少が続いており、29年度は前年比で5,700人のマイナスであり、危機感を感じている。登録、蔵書数は増えている。視聴覚ライブラリーは機材の貸出がほとんど。教材はDVDが35回貸出されている。

報告1(三館連携10周年記念事業)報告2(開館40周年記念事業)について説明。

委員 利用者や貸出冊数の減少に驚いている。原因に何があるのか。図書館の問題かアルネの問題や人口減など周辺の問題なのか、早めに問題点を見極めて対策をとっていく必要があるのではないか。

委員 三館連携や県立図書館との貸出については市立図書館の貸出になっているのか。そちらが増えているために利用が減っているのでは。また年齢別の貸出がわかれば対策ができるのではないか。

館長 利用減について細かい分析が必要だと思っている。現在分析にあたってるところだが、30代の子育て世代の利用の減少が著しい。どうすれば戻るのか検討していこうと思っている。

人口も減っているが、それ以外にも理由がある。読みたい本が電子書籍で読めるなど、環境も変化してきている。一人でも多くの人に関心を持っていただき、多くの本を借りてほしい。

委員 登録が増えているのは良いこと。子育て世代も小さいうちから本に親しむことの大切さが言われており、図書館は身近に感じてもらえるのではないかと。利用者の減少について危機感を感じているようであれば、対策をやってはどうか。

事務局 県立図書館の本の貸出は、利用者が直接県立図書館の本を予約して借りるやり方と、市立図書館を通して貸出を行うやり方がある。市立図書館を通している場合は当館の貸出になるが、直接の場合は県立図書館の貸出になる。他館から予約・リクエストで借りる割合は6%(45,000冊)になっていて、年間かなりの数になっている。三館連携の場合は貸出をしてから持っていくので、当館の貸出になっている。

委員 美作大学の本を借りたことがある。建築関係の本だったが、助かった。連携の幅をもっと広げていけば、専門的な図書も入るようになるのではないかと。

委員長 他の委員さんの意見はどうか。

委員 お母さんのほとんどが働いているために図書館に来られない。加茂でも母親の7割くらいは働いている。

委員 保育園に通っているお母さんの読書の意識はどうなのか。またどのようにして届かせるかが問題では。

委員 当保育園では絵本を家庭に貸し出せるようにしている。ただ、借りる家

庭は限定的で、園でも絵本にふれるようにはしているが、家庭で読んでもらえない子は読まなくなっている。図書館に行ってまで読むということはあまりないように思う。

委員 学校の宿題で音読をする機会はある。親が家で本を読んでいる姿を見る機会が減っているのではないか。スマートフォンの普及など、環境的な部分も多いのでは。

委員 小学校ではどこも親子読書をしている。一緒に本を読んで感想を書くというもの。どこの学校でも取り組んでいるのではないか。またノーメディアの取り組みもあり、その時間を読書にあてている家庭も増えている。また当校にはぶっくまるが来ていて、子どもたちが大変楽しみにしている。

委員 勝北の小学校、中学校に読み聞かせに行っている。ノーメディアの取り組みとはどのようなものか。

委員 勝北中学校では定期テスト前の1週間前はテレビやインターネットを使わないノーメディアデーにしている。家庭にも文書で呼びかけをしており、防災無線でも呼びかけている。

委員 それは勝北だけの取り組みか。

委員 市全体の取り組みになっている。

委員 利用者減については、図書館に来る人に意見を聞いてもわからない。来ていない人が何を求めているのかを知ることが大事。活字を読まなくなっているといわれているが、スマートフォンなどで読んでいる若者も増えている。先手を打つためにワーキンググループをつくるというのはどうか。

(4) 平成30年度津山市立図書館主要事業について

(5) 図書館の運営について

館長 主要事業としては、図書館総合展の実施 これは5月に開催 図書館利用の活性化 こちらは平成37年度目標に向けて相当に厳しい状況。

施設設備の老朽化対策と修繕 本館の床の剥離や照明も20年が経過しており、老朽化対策が必要となっているが予算が厳しい状況 その他として協働の拡大 学校やボランティアとの協働 図書館で行っている事業のほとんどは何らかの形で協働で行っている。調べる学習コンクールは4回目の開催。図書館収入の確保は広告収入に取り組んでいる。

図書館運営としては、人材の確保 平成29年度末で司書職員が退職し、正規職員の採用がない状態。一番若い職員でも30代半ばとなっている。図書館業務の継続のために、採用を働きかけていきたい。財源

の確保 利用者減少の原因の一つともいえるが、資料費は3,000万円をピークに1,600万円まで落ち込んでいて、半分になっている。また市長が変わり、0ベースでの見直しを迫られており、今後も減ると見込まれる。資料を購入することが難しく、職員が選書をするのに苦慮している。津山市の資料費は人口当たりにして県下で最下位となっている。

教育長 市長が変わったので、サマーレビューが行われている。ハコもの事業よりも人の心を膨らませていく図書館のような活動が大事だと思っている。協議会の皆さんの意見を積極的に出してほしい。

委員 司書が一人欠員というのは厳しいのではないかと。心を育てるのは大事なことなので、職員の仕事が円滑にできるようにしてほしい。

委員 職員がいくらがんばっても、お金は絶対に必要。県内最下位の予算というのはひどい。

委員 今の話でいえば、図書館協議会に市長に来ていただき、直接話を聞いてほしいと思う。財源が厳しいのはわかるが、人が生きがいを持つためには生涯学習のまちづくりが必要。お金がなくてもがんばれる市民をつくるには図書館のもっている力を生かしてほしい。最低限ここまでは図書館にするという財政上のラインを作ることが必要ではないか。今日の話はぜひ上に伝えてほしい。

委員 阿波には図書館はないが、ぶっくまるに来てもらっている。大人の方が大変楽しみにしている。

委員 図書館は本の貸出だけをする施設ではないことが今日の資料を見ても良くわかった。こんなことまでしているのかと思うほど情報発信をしている。市長さんにこの声を聴いてほしい。

委員長 人員にせよ資料費にせよ、財政側とのやり取りになる。「これだけは必要だ」とする具体的な人員数、金額を具体的に示して要求してはどうか。数値を理論的に積み上げて算出する作業は図書館にお願いし、協議会は図書館が算出した数値の達成を、市民の声の代弁者として市に主張・応援していきたい。その際には、図書館協議会は館長が諮問できる機関なので、もっと活用して欲しいと思う。

(5) その他

館長 サピエ図書館の紹介。視覚障害の方にも本のサービスを行う新たな取り組み。該当の方がいればご紹介を。

7. 閉会挨拶

委員 色々な仕組みが市にもあると思う。その中で今日話に出たことを最大限努力していただきたい。持続的に取り組んでほしい。

私も本が好きで想像力、発想力が磨かれた。どこに住んでいてもそれが保証されるための仕組みが公共図書館だと思う。これからも協議会でしっかりと議論していきたい。